



小網代通信

発行：小網代ヨットクラブ
〒238-0225
神奈川県三浦市三崎町小網代
1385-18
編集：広報委員会
編集長：里吉美恵子
連絡先：office@koaziroyc.jp

Koaziro Yacht Club

2025年 5月号 VOL-323

2025.5.10 発行

今月の内容

ページ

| | | |
|-------------------|---------------------|-----|
| 連絡事項 | (編集委員) | 1 |
| 初夏のクルージングイベント開催案内 | (クルージング委員長 中井 恒一) | 2 |
| 旧クラブハウスのフジの花が満開 | (KELONIA 大谷 正彦) | 2 |
| 燃料タンク清掃のススメ | (衣笠 及川 洋) | 3~4 |

今後のイベント予定

| | |
|----------|--|
| 5月 KFR | ：5月17日(土)～18日(日) 初島レース (別途帆走指示書をご確認ください) 出艇申告：17日 21時 予告信号：17日 23時55分 |
| 5月 総務委員会 | ：5月19日(月) 19:00～ハイブリッド(品川でリアル会議とZoom会議)で実施 |

連絡事項

1. クラブハウス内2階エアコン入替え工事及びロッカーの扉修繕が行なわれます

①2階サロン エアコンの入れ替え作業

作業日程：5月7日(水)から14日(水) 土日の工事は行いません。

工事期間中はキッチン及びキッチン側ロア半分の利用はできません。

開館以来のエアコンの機能低下での入れ替えです。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

入れ替え後のエアコンの使用は、5月20日(火)または21日(水)以降となります。

②ロッカー扉の修繕を行います。各ロッカーの事前調査を行うにあたりロッカーキーをご返却願います。

各ロッカーの扉の状態をチェックするためロッカー利用の艇にお渡ししているロッカーキーのうちの1本を

5月18日(日)までにクラブハウスのポストに「艇名」「ロッカーハンガーナンバー」をつけて投函してください。

クラブ所有のロッカーです、クラブハウス設置以来の修繕にご利用各艇のご協力をお願いいたします。

2. 初夏のクルージングイベント開催のご案内…クルージング委員会(中井委員長)より

日程：7月26日(土)～27日(日) 場所：千葉県 保田漁港 ばんや(新館)にて昼食懇親会

※日帰りも可。宿泊艇は昼食懇親会後、各艇船上にて交流、夕食＆飲み会。

係船料 日帰り3,000円 停泊4,000円 懇親会3,000円/人(昼食+ドリンク)

(参加申込 7月5日(土) kyc_cruisingml@googlegroups.com まで)2ページをご確認ください。

3. 小笠原レースに参戦しました「テイス4」は、3位となりました。乗員ともに5月5日に無事帰港しました。

4. 4月ダイヤモンド富士の撮影の投稿はありませんでしたが、きれいな藤の花のご投稿いただきました。2ページに掲載。連休を整備ご徹した船もいらしたのではないでしょうか？整備の投稿をいただきました。3ページを是非お読みください。

<2025 KYC 初夏のクルージングイベント開催のご案内>

KYC クルージング委員長 (CYNTHIA) 中井 恒一

2025年クルージング委員会主催のクルージングイベント開催のご案内です。

—昨年に実施した千葉県保田漁港（ばんや）へのクルージング＆懇親会です。

日帰りならびに停泊（船内泊）も可能なので、夕日を眺めながらゆっくりクラブメンバーの皆さんと親睦を図って楽しいひと時をお過ごしください。多数の参加をお待ちしています。

日程：2025年7月26日（土）- 27（日）

9:00頃 KYC クラブハウス集合&出港

12:30頃 保田入港 その後「ばんや（新館）」で昼食（懇親会）

★日帰り艇は適時 KYC へ帰港 ★宿泊艇は、船上交流など（夕食&飲み）

場所：千葉県 保田漁港（ビジャー艇係留場所）

費用：係船料 日帰り3,000円 停泊4,000円 ※懇親会 3,000円/人（昼食+ドリンク）

参加申し込み：下記メールアドレスへ7月5日（土）までに申し込み願います。

メールアド<kyc_cruisingml@googlegroups.com>

※その他問合せは、KYC クルージング委員長 中井まで 090-4178-5441

|旧クラブハウスのフジの花が満開

KELONIA 大谷 正彦

4月20日 KFRの日、旧クラブハウス（湾奥テンダー置き場の隣）の藤の花が見事に満開でした。道路側にはロープが張ってあたため海側からお邪魔して撮影しました。藤の根元の原木は太い幹になって藤棚いっぱいに花を咲かせています。今は無人で訪れる人もなくひっそりしています。

かつては、この家の一室をクラブハウスとして借用し、水場、トイレ、電話などを設備し 打ち合わせ、艇長会議などもここで行い、前庭と海辺を使って夏祭りをにぎやかに行ったことを思い出しました。



藤の木の原木



燃料タンク清掃のススメ

衣笠 及川 洋

衣笠 (Salona37) は 2006 年建造の船齡 19 年、細かい日常のメンテナンスに加えて大規模な修理が必要な場所が徐々に増えてきました。今回は燃料タンク周りのメンテナンスを行ったのでその顛末をご紹介したいと思います。

昨年の GW クルージングで下田からの帰路、相模湾のど真ん中でエンジンがストールするということがありました。南寄りの風 20kt 前後、クオーターリーで快調に機帆走していたときでした。何度か再始動を試みるもの、すぐにまた停止するという症状で典型的な燃料詰まりのように思われました。パンチングでタンク内が揺さぶられたことでスラッジの詰まりを誘発したかもしれません。

風が良かったことと沿岸から離れていたのであまり慌てる事なくセーリングを続け、小網代湾口付近まで戻ってヒールの収まった状態でエンジンキーを捻ると幸いにもエンジンが始動、今度は回り続けそうでしばらく様子を見てセルダウン、泊地には自力で戻ることができました。



エンジン停止中するも快調にセーリング中

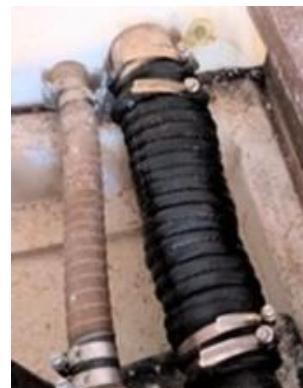
後日、燃料系統を点検すると燃料フィルターや油水分離器は真っ黒、本来透明なはずの燃料（軽油）は薄墨色、タンク内の燃料吸引込み口に付いているメッシュ状のストレーナーにはびっしりとタール状のスラッジが付いていました。よくこの状態でエンジン再始動できたものだと変な感心をするとともに、短時間でこのような状態になったとは思えず、日常点検の不備を反省した次第です。

このときは燃料タンクの清掃と燃料フィルターおよび油水分離器の交換のみを行いましたが、その際に給油口から繋がるゴムホースに問題が生じていることが分かったので、このたび上架整備と合わせて根本対応を行うことにしました。

衣笠の燃料タンクは高密度ポリエチレン製で容量 110L、右舷クオーターバースの下にあります。この燃料タンクとスタークの給油口の間を直径 60 ミリほどのゴムホースで繋いでいるという構造です。



燃料タンク全景



給油口に繋がるホース

このゴムホースの内壁が劣化してドロドロに溶けていてそれが燃料に溶け出し、なおかつ剥がれ落ちた内壁の一部が燃料内を浮遊して燃料吸引込み口のストレーナーを塞いでいたというのがエンジンストールの根本原因のようです。山下ボートサービス (YBS) 山下社長によるとこのゴムホース方式は欧洲の量産艇で割と一般的なものだそうですが、タンクが平たい形状なので燃料が 2/3 以上入っていると、ゴムホースのタンク側 50cm ほどが常に燃料に浸っている状態になります。そのことが劣化を促進していたと思われます。



ホースの内壁



タンクに混入していたスラッジの一部



スラッジの付着していたストレーナー

ゴムホースを交換するにあたって、まずYBSにて古いゴムホースを撤去してもらい、あらためてタンク内の洗浄を行いました。燃料を全量抜き取り、代わりに灯油 40L を投入して排水管清掃用のブラシを使ってタンク内底部ゴシゴシ、ガシャガシャと擦り、汚れの溶け出した灯油を抜き取り、手の届く範囲を拭き取り…と地道な作業です。

ドレンコックが無いので完全には汚れを除去できていないかもしれません、タンクがリリに接着された状態になっているため、これを外して洗うとなるとまず接着部を強引に剥がし、バース入口のロッカーなど内装を一部壊して…と、さらに事が大きくなります。今のところ、これが我々に出来る精一杯の対応です。

清掃後に新しい燃料ホースとエア抜きホースを取り付けてもらい、油水分離器を交換、古い燃料は YBS にて処分してもらって新しい燃料を給油しました。

さらにエンジン内部に吸い込んだスラッジを吹き飛ばすために、洗浄剤入り燃料添加剤を使用して高回転で数時間機走ましたが効果はあったでしょうか。ともかく、これでようやく昨年来の懸案を解決することができました。

実はエア抜きホースもカチカチに劣化、硬化していて、これについても今回交換しています。もしこれが割れていたら大量の燃料漏れを起こし、もっと悲惨なことになっていたかもしれません。

ゴムホースがここまで劣化すると対応が大変です。衣笠と同様にゴムホースを使用している艇では一度点検されることをオススメします。



軽油の匂いが体に染み付く地道な作業です



油水分離器（交換前）



油水分離器（交換後）